

県央ブロックごみ・し尿処理広域化推進協議会の開催結果について

平成31年3月27日

環 境 部

平成31年3月25日に開催した県央ブロックごみ・し尿処理広域化推進協議会において、平成41年度からの稼働を予定している県央ブロック（盛岡広域8市町）の新たなごみ処理施設の整備予定地の選定等の取扱いについて、次のとおり協議したので報告する。

1 協議会開催日時・場所等

日時 平成31年3月25日（月） 14：00～15：15

場所 盛岡市総合福祉センター4階講堂

出席者 盛岡広域8市町長ほか

傍聴人 31人

2 整備予定地の選定等の取扱い（協議結果）

「盛岡インターチェンジ付近」を最も有力な候補地とし、地域との協議を優先して継続する。

整備予定地としての決定については、今後、地域との協議の状況等を踏まえ、慎重に、かつ、総合的に判断する。

3 選定要素に照らした整備候補地の状況整理

整備予定地1か所の選定に当たっては「地域住民や関係者の意見等」、「整備の確実性」及び「整備運営上の諸条件」の要素を総合的に判断することとしているが、これらの要素に照らした整備候補地4か所の状況を整理し総括すると、次のとおりである。

(1) 地域住民や関係者の意見等

ア 盛岡南インターチェンジ付近

商工関係団体から地域振興の提案を添えて誘致要望があった場所であるが、平成29年9月、周辺町内会や農業関係団体で構成する組織から施設整備に反対する要望書が提出されるなど、地域住民と対話することが難しい状況である。

イ 都南工業団地付近

1町内会からの整備計画の撤回を求める要求書の提出（平成31年1月）、地域住民で組織する団体からの反対要望書（反対署名付き）の提出（平成31年2月）、平成31年1月及び2月の住民説明会での強い反対意見など、住民説明会の進捗に伴い、広域化や施設整備に反対する意見が明確になってきており、地域住民との対話を継続することが難しい状況である。

ウ 盛岡インターチェンジ付近

土淵地区においては、平成30年5月の「土淵地区の均衡あるまちづくり」での地域要望を機に、盛岡市主催の懇談会を通じて意見交換を重ね、平成31年2月には、地域住民の参加の下、立地環境が類似している「秋田市総合環境センター」の視察見学会を開催している。

施設整備や地域振興・まちづくり等への関心・期待が高くなってきており、今後も地域

住民や関係者との話し合いを継続していくことが可能であるが、地域には反対の意見もあるため、引き続き、地域住民や関係者との話し合いを継続していく必要がある。

また、太田地区においては、平成31年3月に開催した第1回住民説明会において、施設整備に反対する意見や、説明の継続を求める意見が寄せられていることなどを踏まえ、環境負荷の低減に関し最新の知見と技術が導入された施設の特徴などについて、丁寧に説明しながら意見交換を重ねていく必要がある。

エ 盛岡市クリーンセンター敷地

広域化に反対する団体から当該地への整備に反対する要望書が提出され、施設整備への反対意思を明確に示している地域・町内会があるなど、施設整備に対する反対が強く、予定していた住民説明会が中断する状況である。

関係町内会に対し、盛岡市との間で締結している「盛岡市クリーンセンターに関する覚書」に基づく協議を申し入れたが、協議を進めることができていない。

関係町内会や関係者の多くが施設整備に反対の意向を示しており、覚書に基づく協議や、住民説明会の開催等に向けて、協議・調整を進めることが難しい状況である。

(2) 整備の確実性

ア 盛岡南インターチェンジ付近

地権者を含む地域住民や農業関係団体からの反対の声が強く、施設整備への理解・協力が得られる可能性が低い状況下で、整備を進めることは困難である。

イ 都南工業団地付近

これまで反対意思を明確に示している地権者はいないが、候補地周辺では施設整備や広域化に反対する意見が強くなってきており、地権者の意向への影響が懸念される。

ウ 盛岡インターチェンジ付近

当該地が旧上厨川土地区画整理事業跡地であり、地権者の中には、ごみ処理施設の整備を含め、土地利用の推進を望む意見がある。

懇談会において、旧土地区画整理事業跡地の利活用（案）を示すとともに、具体について地権者等との話し合いを継続することを説明しており、さらなる理解・協力が得られるよう、協議を行っていく必要がある。

エ 盛岡市クリーンセンター敷地

強い反対意見が出されている地域があり、また、覚書の協議も進めることができず、事業説明も実施できない状況下で、整備を進めることは困難である。

(3) 整備運営上の諸条件

ア 盛岡南インターチェンジ付近

地形が平坦であり大規模な造成工事を必要ないが、現況が農地（水田）であるため土盛が必要となる。近接箇所に特別高圧送電線が架線されており、発電に伴う受送電が容易である。各市町からの運搬距離を勘案し、収集運搬中継施設2施設が必要となる。

総費用（ごみ処理施設・収集運搬中継施設の整備費並びに平成41年度から55年度までの施設管理費・収集運搬経費をいう。以下同じ。）は、約703億6千万円と見込まれる。

イ 都南工業団地付近

傾斜地であり大規模な造成工事が必要となり、取付道路の整備や、発電に伴う受送電のための特別高圧送電線の架線が必要となる。収集運搬中継施設2施設が必要となる。

総費用は、約 722億 2 千万円と見込まれる。

ウ 盛岡インターチェンジ付近

地形が平坦であり大規模な造成工事を必要とせず、近接箇所に特別高圧送電線が架線されており、発電に伴う受送電が容易である。収集運搬中継施設2施設が必要となる。

総費用は、約 688億 1 千万円と見込まれる。

エ 盛岡市クリーンセンター敷地

新たな造成工事を必要としないが、発電量の増加に伴う特別高圧送電線の架線が必要となる。収集運搬中継施設3施設が必要となる。

総費用は、約 738億 1 千万円と見込まれる。

(4) 選定要素 ((1)～(3)) のまとめ

ア 「盛岡南インターチェンジ付近」については、候補地全域が農業振興地域である立地環境において、周辺町内会に加え、農業関係団体からも施設整備に強く反対する意見があり、地域住民や関係者の理解・協力を得て事業を進めることが難しい状況である。

イ また、「盛岡市クリーンセンター敷地」についても、施設整備に反対する意見が多く、地域に対する事業説明や話し合い、覚書に基づく協議を進めることができないなど、地域住民や関係者の理解・協力を得て事業を進めることが難しい状況である。

ウ これらのことを踏まえ、平成30年8月に「都南工業団地付近」及び「盛岡インターチェンジ付近」を地域住民や関係者との協議を優先的に継続実施する候補地とし、以後、当該2候補地での住民説明会等を開催してきたところである。

エ 「都南工業団地付近」については、住民説明会の進捗に伴い、施設整備に反対する意見が明確になってきており、住民との対話を継続し、整備への理解を深めることが難しい状況となっている。また、当該候補地については、施設整備に当たり、大規模な土地造成、インフラ整備、特別高圧線の架線等のための費用が必要となる。

オ 「盛岡インターチェンジ付近」について、土淵地区においては、懇談会や視察見学会を通じ、ごみ処理施設の整備に対する理解が進み、廃棄物エネルギーを利活用した地域振興・まちづくり等への期待が高まっているなど、地域と協働し「ふれあいと賑わいのあるまちづくり」に取り組む環境が整ってきており、この関係性を深めていく必要があるが、地域内には反対意見もあるため、今後も丁寧な説明が必要である。整備の確実性に関しては、旧上厨川地区土地区画整理事業跡地の土地利用推進の観点から、地権者の理解・協力が期待されるが、今後も協議が必要である。

また、太田地区においては、施設整備に対する反対意見や、説明の継続を求める意見があること等を踏まえ、同地区に対し、丁寧に説明しながら意見交換を重ねていく必要がある。

なお、総費用は、4候補地の中で最も低いと見込まれる。

4 協議会での協議の概要

協議会では、各市町長から次の意見が出された。

- ・ 4 候補地の中では、「盛岡インターチェンジ付近」が総合的に優位な状況である。
- ・ 住民説明会等の状況から、地域との協議を継続していく必要がある。
- ・ 地域の意見を聴きながら、丁寧に説明し、地域住民や関係者の理解を得ていく必要がある。
- ・ 先進地の視察見学などを含め、しっかりとした説明を行い、不安材料を解消しながら進めていく必要がある。

その上において、上記 2 の協議結果に至ったものである。

5 平成31年度の予定

(1) 地域住民や関係者との協議

住民説明会や懇談会、勉強会等を開催し、地域住民や関係者と、施設整備、廃棄物エネルギーを利活用した地域振興、まちづくり等についての意見交換を継続して行う。

(2) 関係市町での協議

圏域における 3 R 推進の目標と、その実現のために盛岡広域 8 市町が連携して取り組む施策について、引き続き協議する。

(資料)

別紙 1 県央ブロックごみ処理施設整備予定地の選定要素について

別紙 2 県央ブロックごみ処理施設整備予定地の選定に係る地域住民の意見等

別紙 3 県央ブロックごみ処理施設整備予定地の選定に係る概算事業費（整備候補地別）

県央ブロックごみ処理施設整備予定地の選定要素について

整備候補地	① 地域住民や関係者の意見等 (住民説明会等での意見、地域振興策の要望等)		② 整備の確実性 (地権者の状況、覚書協議等)	③ 整備運営上の諸条件 (造成、建設、収集運搬の費用等)	選定要素 (①～③) のまとめ
	現況	課題等			
盛岡南インターチェンジ付近	- 商工関係団体から、地域振興の提案を添えて施設誘致の要望があった場所である。 - 住民説明会では、農作物への影響、風評被害等を懸念する意見や、田園地帯に処理施設を整備することへの疑問の声が寄せられた。 - 平成29年9月、周辺町内会及び農業関係団体等で構成する組織から、農業を振興する上で不適地であり、施設整備に反対する内容の要望書が提出されている。	周辺町内会や関係者の多くから施設整備に反対の意向が示され、その状況に変化がないため、住民説明会等を開催し、地域住民と対話することが難しい状況である。	地権者を含む地域住民や農業関係団体からの反対の声が強く、施設整備への理解・協力が得られる可能性が低い状況下で、整備を進めることは困難である。	- 平坦な地形。大規模な造成は不要 - 現況が農地（水田）であり、土盛が必要 - 近接箇所に特別高圧送電線が架線済み。発電に伴う受送電が容易 - ブロック内に収集運搬中継施設2施設が必要 【整備費・管理費（15年間）】 70,362百万円	候補地全域が農業振興地域（水田）である立地環境において、周辺町内会に加え、農業関係団体からも施設整備に強く反対する意見があり、地域住民や関係者の理解・協力を得て事業を進めることが難しい状況である。
都南工業団地付近	- 平成29年度の住民説明会（1町内会を対象）では、賛成・反対の明確な意見はなかった。 - 平成30年度の住民説明会（5町内会を対象）では反対意見が出されるようになり、31年1月及び2月の住民説明会では、参加者の多くから強い反対意見が寄せられた。 - 平成31年1月、1町内会から、整備計画の撤回を求める要求書が提出されている。 - 平成31年2月・3月、地域住民で組織する団体から、手代森地区への施設建設に反対する要望書が、反対署名書を添えて提出されている。	- 住民等の意見を集約することが難しい状況である。 - 住民説明会において強い反対の意見が寄せられているほか、施設整備に反対の意思を表示している町内会があり、また、反対要望や署名が提出されるなど、住民説明会の進捗に伴い、施設整備に反対する意見が明確になってきており、地域住民との対話を継続することが難しい状況である。	- 明確な反対意思を示している地権者はいない。 - 候補地周辺では施設整備や広域化に反対する意見が強くなってきており、地域住民や関係者の理解・協力が得られる可能性が低い状況下で、整備を進めることは困難である。	- 傾斜地。大規模な土地造成が必要 - 県道からの取付道路の整備が必要 - 発電に伴う受送電のための特別高圧送電線の架線が必要 - ブロック内に収集運搬中継施設2施設が必要 【整備費・管理費（15年間）】 72,222百万円	- 住民説明会の進捗に伴い、施設整備に反対する意見が明確になってきており、住民との対話を通じて整備への理解を深めることが難しい状況である。 - 施設整備に当たり、大規模な土地造成のための費用を要する。
盛岡インターチェンジ付近	【土淵地区】 - 平成30年5月の「土淵地区まちづくり懇談会」（盛岡市主催）において「土淵地区の均衡あるまちづくり」の要望を受け、地区（全6町内会）での懇談会を通じ、意見交換を重ねてきた。 - 平成29年10月、地域住民で組織する団体から、施設整備に反対する要望書が、反対署名を添えて提出されている。 - 平成31年2月、地域住民の参加の下、立地環境が類似している「秋田市総合環境センター」の視察見学会を開催した。 - 地域内には反対意見もあるが、施設整備や地域振興・まちづくりへの関心・期待が高まってきている。 【太田地区】 - 平成31年3月に開催した第1回住民説明会では、環境への影響を心配し施設整備に反対する意見や、説明の継続を求める意見が寄せられた。 - 地域住民で組織する団体から、施設整備に反対する要望書が、反対署名を添えて提出されている。	【土淵地区】 - 今後も、ごみ焼却施設の整備、廃棄物エネルギーを利活用した地域振興・まちづくり等について、地区住民との対話を重ねていく必要がある。 - 施設整備に反対している地域住民がいることを踏まえ、地域に対し丁寧に説明しながら意見交換を重ねていく必要がある。 【太田地区】 - 土淵地域へのごみ処理施設の整備に伴う生活環境への影響を心配する意見等が多いことから、環境負荷の低減に関し最新の知見と技術が導入された施設の特徴などについて、丁寧に説明しながら意見交換を重ねていく必要がある。	- 当該地は旧上厨川土地区画整理事業跡地であり、地権者の中には、ごみ処理施設の整備を含め、土地利用の推進を望む意見がある。 - 懇談会において、区画整理事業跡地の利活用（案）を示すとともに、具体については地権者等と話し合いを継続することを説明しており、さらなる理解・協力が得られるよう、協議していく必要がある。	- 平坦な地形。大規模な造成は不要 - 近接箇所に特別高圧送電線が架線済み。発電に伴う受送電が容易 - ブロック内に収集運搬中継施設2施設が必要 【整備費・管理費（15年間）】 68,810百万円	- 土淵地区においては、懇談会や視察見学会を通じ、ごみ処理施設の整備に対する理解が進み、廃棄物エネルギーを利活用した地域振興・まちづくり等への関心・期待が高まってきている。 - 地域と協働し「ふれあいと賑わいのあるまちづくり」に取り組む環境が整ってきており、この関係性を深めていく必要がある。 - 地域内には反対意見もあるため、今後も丁寧な説明が必要である。 - 区画整理事業跡地の土地利用推進の観点から、地権者の理解・協力が期待されるが、今後も協議が必要である。 - 太田地区においては、住民説明会で施設整備に対する反対意見や説明の継続を求める意見が寄せられたこと等を踏まえ、丁寧に説明しながら意見交換を重ねていく必要がある。 - 総費用は、4候補地の中で最も低いと見込まれる。
盛岡市クリーンセンター敷地	- 広域化に反対する団体から、当該地への整備に反対する要望書が、反対署名を添えて提出されている。 - 施設整備への反対意思を明確に示している地域・町内会がある。 - 関係町内会に「盛岡市クリーンセンターに関する覚書」に基づく協議を申し入れたが、協議を進めることができていない。 - 施設整備に対する反対が強く、平成29年度に予定していた住民説明会が中断している。	関係町内会や関係者の多くが施設整備に反対の意向を示しており、覚書に基づく協議や、住民説明会の開催等に向けて協議・調整を進めることが難しい状況である。	強い反対意見が出されている地域があり、また、覚書の協議も進めることができず、事業説明も実施できない状況下で、整備を進めることは困難である。	- 新たな造成工事は不要 - 発電に伴う受送電のための特別高圧送電線の架線が必要 ※ 契約電力が、現施設の1,570kwから2,000kw以上（特別高圧）となるため - ブロック内に収集運搬中継施設3施設が必要 【整備費・管理費（15年間）】 73,809百万円	- 施設整備に反対する意見が多く、地域に対する事業説明や話し合い、覚書に基づく協議を進めることができないなど、地域住民や関係者の理解・協力を得て事業を進めることが難しい状況である。 - 収集運搬中継施設3施設の設置が必要となるため、総費用は、4候補の中で最も高いと見込まれる。

県央ブロックごみ処理施設整備予定地の選定に係る地域住民の意見等

※ 下線部分は、平成31年3月6日の全員協議会での説明時からの変更箇所

1 住民説明会等の開催状況

平成29年5月の整備候補地4か所の公表後、7月から8月にかけて4候補地での説明会を、10月には「盛岡市クリーンセンター敷地」を除く3候補地での説明会を開催した。

「盛岡南インターチェンジ付近」については、周辺町内会及び農業関係団体等で構成された組織から施設整備に反対する内容の要望書が提出され、「盛岡市クリーンセンター敷地」については、広域化や施設整備への多くの反対意見や「盛岡市クリーンセンターに関する覚書」に基づく協議を優先すべき等の意見により説明会が中断し、覚書協議を申し入れたが協議を進めることができないなど、両候補地とも、地域住民や関係者との協議を進めることが難しい状況となった。

一方、「都南工業団地付近」については、地域から説明会等の開催要望があり、「盛岡インターチェンジ付近」については、地域振興・まちづくり等に関する積極的な意見が寄せられていた。

これらのことを踏まえ、平成30年8月、「都南工業団地付近」及び「盛岡インターチェンジ付近」の2つの候補地を、地域住民や関係者との協議を優先的に継続実施する候補地とし、以後、説明会、懇談会等を行いながら、地域住民や関係者との意見交換を重ねてきた。

【住民説明会等の開催経過】

整備候補地	開催年度	会場等	対象町内会	参加者
盛岡南インターチェンジ付近	H29年度	3会場 (H29.7.19～21)	田中自治会, 上永井自治公民館, 下久根町内会, 下羽場町内会	84名
		1会場 (H29.10.26)		38名
都南工業団地付近	H29年度	1会場 (H29.7.11)	堀越自治公民館	21名
		1会場 (H29.10.13)		22名
	H30年度	1会場 (H30.7.20)	田の沢町内会, 沢目町内会	10名
		1会場 (H30.8.28)	新山自治会	24名
		1会場 (H30.12.19)	堀越自治公民館, 田の沢町内会, 沢目町内会	19名
		1会場 (H30.12.20)	新山自治会	22名
		1会場 (H31.1.19)	手代森ニュータウン町内会	62名
		1会場 (H31.2.23)		58名
盛岡インターチェンジ付近	H29年度	1会場 (H29.7.7)	前潟自治会, 上厨川自治会	42名
		1会場 (H29.10.17)		47名
	H30年度	1会場※ (H30.11.16)	土淵地区全6町内会 (前潟自治会, 上厨川自治会, 土淵自治会, 谷地上自治会, 平賀振興会, 長橋町自治会)	104名
		1会場※ (H31.1.20)		89名
		秋田市総合環境センター視察見学 (H31.2.19, 21)		68名
		1会場 (H31.3.20)	太田地区全11町内会	109名
盛岡市クリーンセンター敷地	H29年度	5会場 (H29.7.24～8.9)	松園地区全13町内会, 上米内地区全6町内会	218名

※ ごみ処理施設の整備を含む地域のまちづくりをテーマとする「土淵地区のふれあいと賑わいのあるまちづくり懇談会」として、盛岡市主催により開催

2 各整備候補地周辺の住民等からの要望、意見、質問等（主なもの）

整備候補地	住民等からの要望、意見、質問等（主なもの）	
盛岡南インターチェンジ付近	要望	- 開発投資の経済性があり、余熱利用による経済効果が期待でき市内全域の活性化に貢献できるので、施設誘致を要望する。（H29年4月。商工関係団体からの要望書） - 農業を振興する上で不適地であり、施設の設置について反対する。（H29年9月。周辺町内会及び農業関係団体等で構成された組織からの要望書）
	意見、質問等	- 農作物への影響、風評被害等への懸念がある。 - 立派な田園地帯になぜ焼却施設が必要なのか。
都南工業団地付近	要望	「都南工業団地付近」を候補地から除くこと。ごみ処理広域化そのものを見直すこと。（H31年1月。1町内会からの要求書） （H31年2月ほか（計3回）。地域住民で組織する団体からの要望書。2,681名の署名あり）
	意見、質問等	1か所決定の要件やスケジュール、住民合意の進め方、説明会の対象範囲の設定の考え方等がわからない。 - 話し合いの時間がほしい。整備予定地選定の時期について、平成30年度末ではなく、さらに半年延期してほしい。 - 地理的な面から、土地造成等による影響が懸念される。 - 農業を営んでいるが、風評被害により一定数の顧客が失われる。 - 処理技術は問題がなく、乙部地区の発展のため賛成する。 - 道路や上下水道の整備、公民館の補修、雇用など、従前からの地域課題解決につながる地域づくりを進めてほしい。
盛岡インターチェンジ付近	要望	【土淵地区】 - 上厨川地区へのごみ処理施設整備と地域振興策を検討し、まちづくりを示してほしい。（H29年10月。地権者等で構成された団体からの要望書） - ごみ処理施設は市の西玄関口に相応しくなく、風評被害の恐れから発展の壁となり、車両増加による安全上の問題も生じるので、反対する。（H29年10月。地域住民で組織する団体からの要望書。309名の署名あり） 「新駅の設置」、「交通対策」、「区画整理事業跡地の土地利用」を進め、土淵地区の均衡ある発展計画を示してほしい。（平成30年5月。土淵地区まちづくり懇談会） 【太田地区】 「盛岡インターチェンジ付近」を候補地から除くこと。ごみ処理広域化そのものを見直すこと。（H31年3月。地域住民で組織する団体からの要望書。690名の署名あり）

整備候補地	住民等からの要望、意見、質問等（主なもの）	
盛岡インターチェンジ付近	意見、質問等	【土淵地区】 ・ 環境への影響、ぜん息等の健康被害、交通渋滞などが心配である。 ・ ごみ処理施設が、なぜ、まちづくりに貢献するのか理解できない。 ・ 「区画整理事業跡地の土地利用」として、ごみ処理施設・付帯施設の整備をお願いしたい。 ・ なぜ、商業施設や飲食店、住民がたくさん住んでいるこの場所に焼却施設を建設しなければならないのか。 ・ 風が西から東に吹くこの地域に、ごみ焼却施設は向いていない。 ・ 公害問題が解消され、インフラが優先的に整備されるなら、施設整備に賛成する。 ・ 今の施設は、公害、大気汚染等の問題がないと聞いている。立地環境が類似している秋田市の焼却施設の見学会を実施してはどうか。 ・ ごみ処理場は山の中に建てるイメージがあつたが、住宅地や商業地の近くにあり驚いた。臭いも煙りもほとんどない高度な処理施設に感心した。（視察見学会への参加者） ・ 公害、風評被害等もなく、同じような施設であれば安心という気になった。（視察見学会への参加者） 【太田地区】 ・ <u>環境、交通渋滞の部分の説明は納得できないので、もう少し説明会を開催してほしい。</u> ・ <u>平成31年2月に説明会の案内が届き、3月20日に話を聞き、3月25日の協議会で結論を出すのではなく、何度も話をしていただきたい。</u> ・ <u>次は、いつ説明会を開催するのか。</u> ・ <u>最初から盛岡インターチェンジ付近ありきで進めたのではないか。</u> ・ <u>岩手山が噴火した場合の火山灰の降灰、水害の影響などは考慮しているのか。</u>
盛岡市クリーンセンター敷地	要望	・ 盛岡市クリーンセンター敷地に新施設を誘致しないこと。（H28年6月。同センター建設地の地元町内会からの陳情書） ・ 不安解消のため地域住民が納得するような説明会を開催すること。「盛岡市クリーンセンターに関する覚書」を遵守すること。（H28年6月。上米内地区からの要望書） ・ クリーンセンター敷地を整備候補地から除外することを要望する。（H29年10月。上米内地区まちづくり懇談会） ・ 広域化基本構想を撤回すること、「盛岡市クリーンセンターに関する覚書」を遵守し、クリーンセンター敷地に新施設を建設しないこと、整備候補地からクリーンセンター敷地を除外すること等を要請する。（H27年7月ほか（計6回）。広域化に反対する団体からの要請書。3,866名の署名あり）

整備候補地	住民等からの要望、意見、質問等（主なもの）	
盛岡市クリーンセンター敷地	意見、質問等	・ ごみの減量と逆行する広域化は見直すべき。 ・ 焼却施設周辺の小中学校では、児童・生徒のぜん息罹患率が高いなど、健康への影響が心配だ。 ・ 町内会の総意として反対である。（3町内会） ・ 50年間もごみ処理の地域にされ、苦痛を強いられてきた。
	覚書の協議	・ 市は、施設更新に当たり計画を立案する際には分散型立地を原則とすること等を定めている「盛岡市クリーンセンターに関する覚書」に反している。広域化の説明の前に、覚書に基づく協議を行うべき。 ※ 平成29年度の住民説明会については、5会場で、3会場で、冒頭から覚書への疑義に関する意見、質問等が多く寄せられ、内容説明を行うことができなかった。 ・ 町内会として施設整備に反対する陳情書を提出しているので、覚書の協議に応じる必要はない。（建設地の地元町内会） ・ クリーンセンター敷地を候補地から除外してほしい。（覚書に基づく協議の相談依頼に対する上米内地区からの回答） ・ 上米内地区の意向を無視した対応はできない。（松園地区の意見）
盛岡南インターチェンジ付近を除く整備候補地	要望	・ <u>広域化は、ごみ減量への意識を衰退させ、住民参加のごみ処理システムの実現を困難にするため、ごみ減量・資源化に逆行する。</u> ・ <u>施設の大規模集約化は、特定地域へ有害物質の集中的な排出をもたらし、一部地域住民に環境負荷を押し付け、農産物に被害を及ぼす。</u> ・ <u>広域化は、ごみの収集運搬距離・量を増大させ、環境負荷と費用を増大させる。</u> ・ <u>ごみ処理計画と用地選定は、住民との対話と合意に基づいて進めるべきだが、住民合意のないままに進められている。</u> ・ <u>住民合意のごみ処理を実現するためには、広域化ではなく処理施設の「分散立地」と「自区内処理」が重要である。</u> (H31年3月。3候補地に関係する反対団体からの連名による要請書)

県央ブロックごみ処理施設整備予定地の選定に係る概算事業費（整備候補地別）

1 イニシャルコスト

項 目	試算条件等	盛岡南インターチェンジ付近	都南工業団地付近	盛岡インターチェンジ付近	盛岡市クリーンセンター敷地
土地取得費	取得面積：5ha 取得単価：公共取得事例	・5ha×@7,000円/㎡＝ 350,000千円 ※取得事例 H29年12月（田） (計) 350,000千円	・5ha×@1,300円/㎡＝ 65,000千円 ※取得事例 H21年7月（山林） (計) 65,000千円	・5ha×@2,200円/㎡＝ 110,000千円 ※取得事例 H29年3月（山林） (計) 110,000千円	(取得不要) (計) 0千円
インフラ整備費	共通関連工事費・水道電気負担金：盛岡市実績 特別高圧工事負担金（受電分のみ）：事業者見積 ※ 契約電力が2,000kw以上（特別高圧）の場合、 電線の引込み、鉄塔の整備等が必要 (参考) 盛岡市クリーンセンター：1,570kw	・共通関連工事費 238,000千円 ・水道電気負担金 30,000千円 ・特別高圧工事負担金 0千円 (計) 268,000千円	・共通関連工事費 238,000千円 ・水道電気負担金 30,000千円 ・特別高圧工事負担金 6,480千円 ・取付道路整備費 130,000千円 (計) 404,480千円	・共通関連工事費 238,000千円 ・水道電気負担金 30,000千円 ・特別高圧工事負担金 0千円 (計) 268,000千円	・共通関連工事費 0千円 ・水道電気負担金 0千円 ・特別高圧工事負担金 3,024千円 (計) 3,024千円
造成費	造成面積：5ha 単価：国税庁財産評価基準（岩手県 平成30年分） ① 整地費 700円/㎡, ② 伐採費 1,000円/㎡ ③ 改良費 1,800円/㎡, ④ 土盛費 6,700円/㎡ ⑤ 土止費 65,200円/㎡ ※ 傾斜が10度超15度以下の場合は、33,700円/㎡ （①④⑤を含めた単価。②③は別算定） 傾斜が3度以下の場合は、①～⑤の組合せ	《傾斜 0.2度》 ・整地費 35,000千円 ・改良費 90,000千円 ・土盛費 335,000千円 (計) 460,000千円	《傾斜12.5度》 ・傾斜地造成費 1,685,000千円 ・伐採・抜根費 50,000千円 (計) 1,735,000千円	《傾斜 0.8度》 ・整地費 35,000千円 ・伐採・抜根費 50,000千円 (計) 85,000千円	(整備済) (計) 0千円
焼却施設整備費	施設規模：500t/日 単価：@50,000千円/t（全国事例単価 環境省公表） (交付金) 整備費分 交付率（想定）：4/10 施工監理分 交付率：1/3	・整備費 500t×@50,000千円/t＝ 25,000,000千円 ①…うち交付金の交付対象事業：80% ・施工監理費 240,000千円 ② (計) 25,240,000千円 ※交付金充当額 8,080,000千円（①×80%×4/10＋②×1/3）			
収集運搬中継施設整備費	各市町の市役所及び町役場から各整備候補地までの距離が25km以上の場合に設置 建設費：全国実績（岩手県基礎調査報告書） (交付金) 交付率：1/3	・八幡平市清掃センター 613,000千円 ・岩手・玉山清掃事業所 435,000千円 (計) 1,048,000千円 ※交付金充当額 349,300千円			・八幡平市清掃センター 613,000千円 ・岩手・玉山清掃事業所 435,000千円 ・盛岡・紫波環境組合 811,000千円 (計) 1,859,000千円 ※交付金充当額 619,600千円
既存施設解体工事費	中継施設設置に伴う既存焼却施設の解体工事費 解体費：全国実績（基本構想） (交付金) 交付率：1/3	・八幡平市清掃センター 140,000千円 ・岩手・玉山清掃事業所 100,000千円 (計) 240,000千円 ※交付金充当額 80,000千円			・八幡平市清掃センター 140,000千円 ・岩手・玉山清掃事業所 100,000千円 ・盛岡・紫波環境組合 280,000千円 (計) 520,000千円 ※交付金充当額 173,000千円
施設整備に係る計画支援費	焼却施設整備関係（H30年度試算） (交付金) 交付率：1/3	① 基本計画の策定 20,000千円, ② PFI等導入調査 10,000千円, ③ 測量・地質調査 50,000千円, ④ 生活環境影響調査 200,000千円, ⑤ 基本設計 50,000千円, ⑥ 発注支援 70,000千円 (計) 400,000千円 ※交付金充当額 133,300千円			左の①②④⑤⑥の項目及び金額 (計) 350,000千円 ※交付金充当額 116,600千円
	中継施設整備関係（H30年度試算） (交付金) 交付率：1/3	① 生活環境影響調査 10,000千円, ② 基本設計 2,700千円, ③ 発注支援 3,300千円 (計) 16,000千円 ※交付金充当額 5,300千円			左の項目及び3/2の金額 (計) 24,000千円 ※交付金充当額 8,000千円
合 計		(合計) 28,022,000千円 ※交付金充当額 8,647,900千円 ※交付金を除いた額 19,374,100千円	(合計) 29,148,480千円 ※交付金充当額 8,647,900千円 ※交付金を除いた額 20,500,580千円	(合計) 27,407,000千円 ※交付金充当額 8,647,900千円 ※交付金を除いた額 18,759,100千円	(合計) 27,996,024千円 ※交付金充当額 8,997,200千円 ※交付金を除いた額 18,998,824千円

備考 1 「交付金」は、循環型社会形成推進交付金（環境省所管）

2 「エネルギー利用施設の整備費用」及び「地域振興・まちづくりに要する費用」は、今後の地域との協議を経て内容を決定するため、試算に含めていない。

2 ランニングコスト ※ 新たなごみ処理施設の稼働後15年間（平成41年度から平成55年度まで）のランニングコスト

項 目	試算条件等	盛岡南インターチェンジ付近	都南工業団地付近	盛岡インターチェンジ付近	盛岡市クリーンセンター敷地
収集運搬経費	① 直接搬入に係る経費（各市町～処理施設） ② 中継施設経由での搬入に係る経費（各市町～中継施設、中継施設～処理施設）	① 16,579,506千円（5市町分） ② 1,938,048千円（3市町分） (計) 18,517,554千円	① 17,314,246千円（5市町分） ② 1,937,830千円（3市町分） (計) 19,252,076千円	① 15,658,181千円（5市町分） ② 1,923,197千円（3市町分） (計) 17,581,378千円	① 16,197,011千円（3市町分） ② 3,974,010千円（5市町分） (計) 20,171,021千円
中継施設の運営 ・維持管理費	基本構想に基づく算定 ・維持管理費 建設費×15% ・人件費 6,000千円／人／年 ・運営人数 2人／施設	・八幡平市清掃センター 1,352,000千円 ・岩手・玉山清掃事業所 1,001,000千円 (計) 2,353,000千円			・八幡平市清掃センター 1,352,000千円 ・岩手・玉山清掃事業所 1,001,000千円 ・盛岡・紫波環境組合 1,820,000千円 (計) 4,173,000千円
焼却施設の運営 ・維持管理費	基本構想に基づく算定 ・運営費 盛岡市クリーンセンターを参考にして積算（人件費等） ・維持補修費 整備費に経過年数ごとの補修費率を乗じて積算	・運営費 10,095,000千円 ・維持補修費 11,374,000千円 (計) 21,469,000千円			
合 計		(合計) 42,339,554千円	(合計) 43,074,076千円	(合計) 41,403,378千円	(合計) 45,813,021千円

備考 焼却に伴って発生する「灰」の運搬経費は、焼却方式や灰の処理方法が現時点で未定であるため、試算に含めていない。

3 トータルコスト（＝ 1＋2）

項 目	盛岡南インターチェンジ付近	都南工業団地付近	盛岡インターチェンジ付近	盛岡市クリーンセンター敷地
イニシャルコスト	(合計) 28,022,000千円 ※交付金充当額 8,647,900千円 ※交付金を除いた額 19,374,100千円	(合計) 29,148,480千円 ※交付金充当額 8,647,900千円 ※交付金を除いた額 20,500,580千円	(合計) 27,407,000千円 ※交付金充当額 8,647,900千円 ※交付金を除いた額 18,759,100千円	(合計) 27,996,024千円 ※交付金充当額 8,997,200千円 ※交付金を除いた額 18,998,824千円
ランニングコスト	(合計) 42,339,554千円	(合計) 43,074,076千円	(合計) 41,403,378千円	(合計) 45,813,021千円
合 計	(合計) 70,361,554千円 ※交付金充当額 8,647,900千円 ※交付金を除いた額 61,713,654千円	(合計) 72,222,556千円 ※交付金充当額 8,647,900千円 ※交付金を除いた額 63,574,656千円	(合計) 68,810,378千円 ※交付金充当額 8,647,900千円 ※交付金を除いた額 60,162,478千円	(合計) 73,809,045千円 ※交付金充当額 8,997,200千円 ※交付金を除いた額 64,811,845千円

備考 「交付金」は、循環型社会形成推進交付金（環境省所管）